

オーディオミキサー

取扱説明書 応用操作編

品番 WR-D100, WR-D100S



RAMSA

もくじ

はじめに	2
取扱説明書について	2
登録商標について	2
パターンメモリーの活用	3
パターンを書き込む（登録する）	4
パターンを呼び出す	5
ライブラリメモリーの活用	6
ダイナミクスライブラリ	7
イコライザーライブラリ	8
AUXセンドライブラリ	10
チャンネルデータのコピー	12

はじめに

取扱説明書について

本書は、デジタルミキサーならではの機能説明についてまとめた「応用操作編」です。本ミキサーの基本機能については、「基本操作編」で説明していますので、そちらをご覧ください。また、付属のリモートコントロールソフトについては、CD-ROM内に収められている「操作ガイド」で説明していますので、そちらをご覧ください。

登録商標について

- ADATおよびALESISは、アレシス社の登録商標です。
- TEACおよびTASCAMIは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Tascam Digital Audio Interface (TDIF-1) は、ティアック株式会社の商標です。
- AdobeおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- WindowsおよびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

パターンメモリーの活用

- パターンメモリーとは、フェーダー、チャンネルON/OFF、イコライザー、マトリクスON/OFFなどの各種パラメータ値をミキサーの運用環境パターンとして登録するものです。
- パターンメモリーには、マトリクス部以外の各種パラメータ値を書き込み、呼び出しするパターンメモリーと、マトリクス部の各種パラメータ値を書き込み、呼び出しするマトリクスパターンメモリーの2種類があります。
- パターンメモリー、マトリクスパターンメモリーは、それぞれ10パターンまで登録できます。
- 通常、パターンメモリーとマトリクスパターンメモリーは、トータルパターンメモリーとして扱われ、同じメモリー番号で書き込み、呼び出しが行われます。マトリクスパターンリンクスイッチをOFFにすると、パターンメモリーとマトリクスパターンメモリーを独立して扱うことができます。
- パターンにて書き込み、呼び出しができるパラメータは次のとおりです。詳細は、基本操作編の付録にある“初期設定モードと工場出荷状態”の一覧表をご覧ください。

	書き込み、呼び出しができるパラメータ
チャンネル	レベル、ON/OFF、INSなど系統決めに関わるもの EQ、COMP/GATE/EXPANDER
ミュートグループ	バスアサイン 設定 マスターON/OFF

- トークバック / オシレータ部、エアマイク部、アナウンスマイク部、モニター部はパターンの対象ではありません。

パターンメモリの活用

パターンを書き込む（登録する）

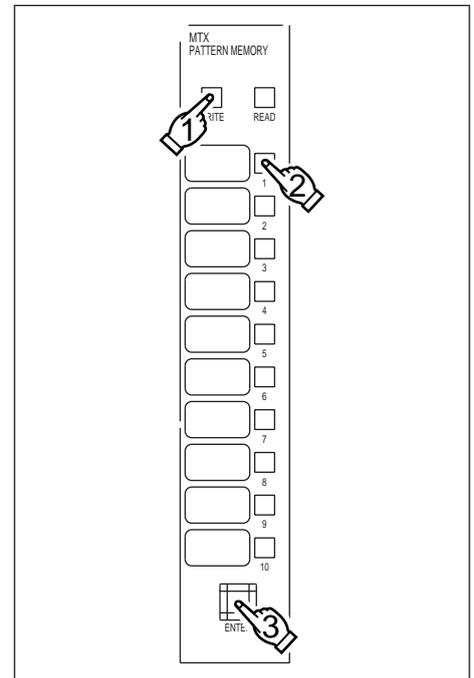
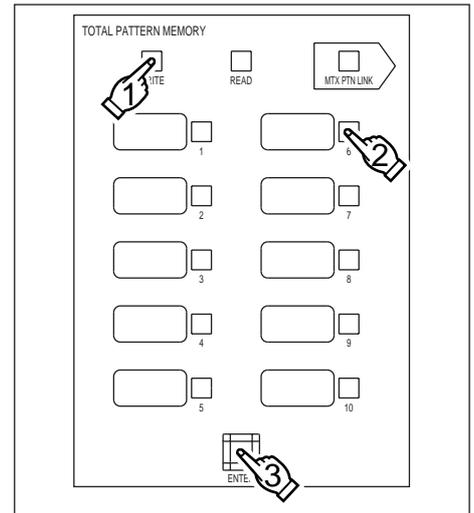
パターンを登録するためには次の操作を行います。

パターンメモリーはトータルパターン部で操作します。マトリクスパターンメモリー単独での書き込みは、マトリクス部にあるマトリクスパターン部で操作します。操作手順は同じです。

- 1 パターンライトスイッチを押します。
 - スイッチが点滅し、ライトモード（書き込み状態）になります。
 - もう一度押すと、ライトモードが解除されます。

- 2 書き込みを行うパターン番号スイッチを押します。
 - スイッチが点滅します。

- 3 パターン確定スイッチを押します。
 - 書き込みが実行され、手順2で選択したパターン番号スイッチが点灯に変わります。
 - パターンライトスイッチは消灯します。



メモ

マトリクスパターンの書き込み操作を行ったときは、マトリクスパターンリンクスイッチの状態にかかわらず、マトリクスパターンが書き込まれます。

パターンを呼び出す

登録したパターンを呼び出すときは次の操作を行います。

パターンメモリーはトータルパターン部で操作します。マトリクスパターンメモリー単独での呼び出しは、マトリクス部にあるマトリクスパターン部で操作します。操作手順は同じです。

1 パターンリードスイッチを押します。

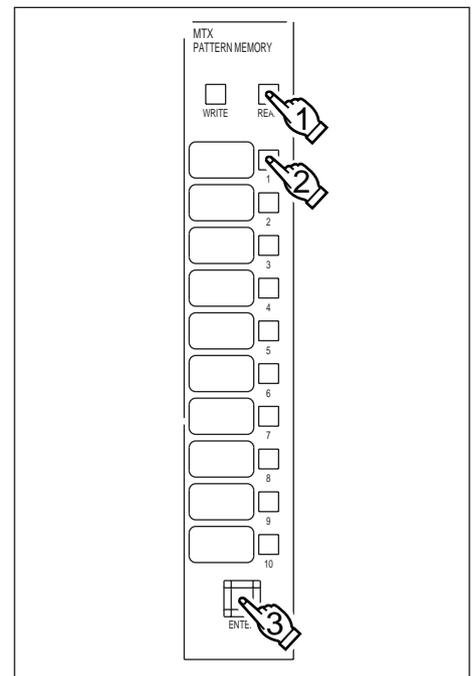
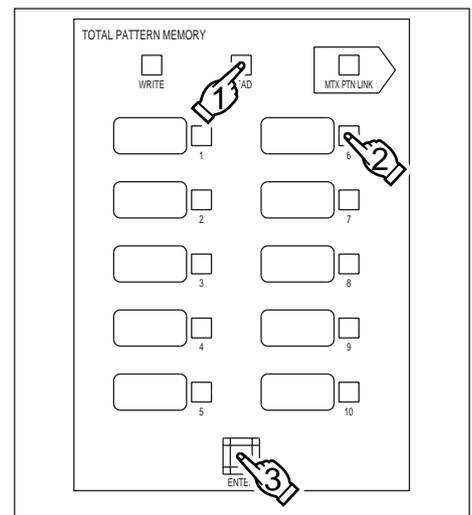
- スイッチが点滅し、リードモード（呼び出し状態）になります。
- もう一度押すと、リードモードが解除されます。

2 呼び出しを行うパターン番号スイッチを押します。

- スイッチが点滅します。

3 パターン確定スイッチを押します。

- 呼び出しが実行され、手順2で選択したパターン番号スイッチが点灯に変わります。
- パターンリードスイッチは消灯します。



メモ

マトリクスパターンの呼び出し操作を行ったときは、マトリクスパターンリンクスイッチの状態にかかわらず、マトリクスパターンが呼び出されます。

ライブラリメモリーの活用

- ライブラリメモリーには、“ダイナミクスライブラリ” “イコライザーライブラリ” “AUXセンドライブラリ” の3種類があり、それぞれ8パターンまで登録できます。
- ライブラリを使用することにより、効率よく各データの設定を行うことができます。

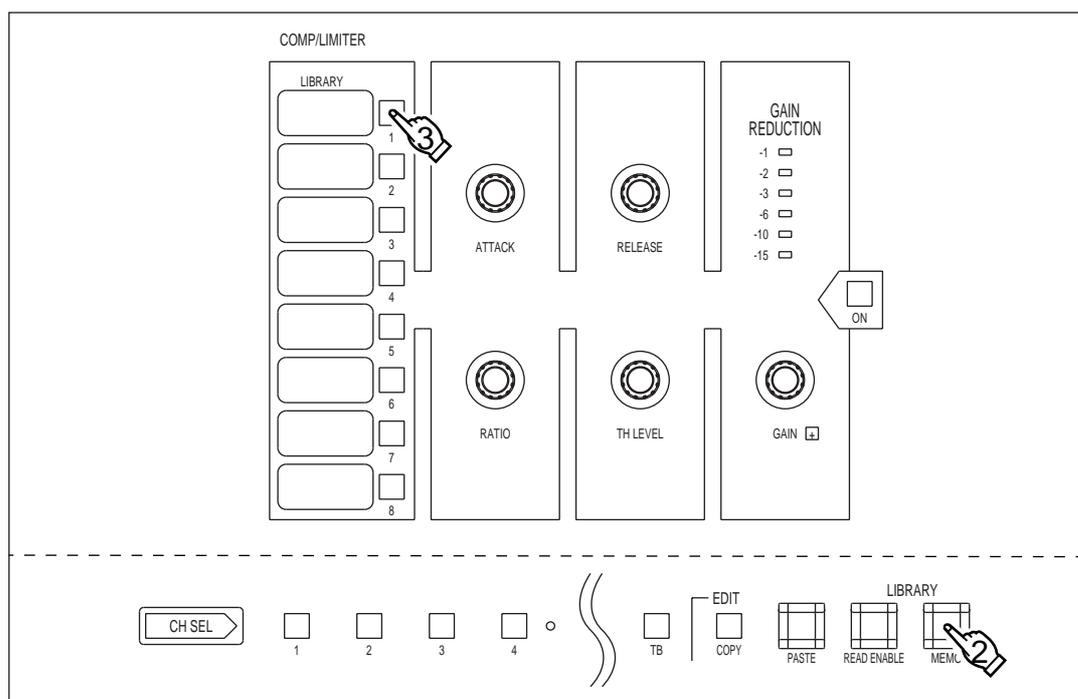
ダイナミクスライブラリ

ダイナミクスライブラリでは、1チャンネル分のダイナミクスデータを8パターンまで登録し、呼び出すことができます。

ダイナミクスライブラリを書き込む（登録する）

ダイナミクスライブラリを登録するためには次の操作を行います。

チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“COMP/LIMITER”操作部の操作方法です。



1 チャンネルコントロール部に呼び出したチャンネルのダイナミクス設定を行います。

(基本操作編、46ページ)

2 ライブラリMEMOスイッチを押します。

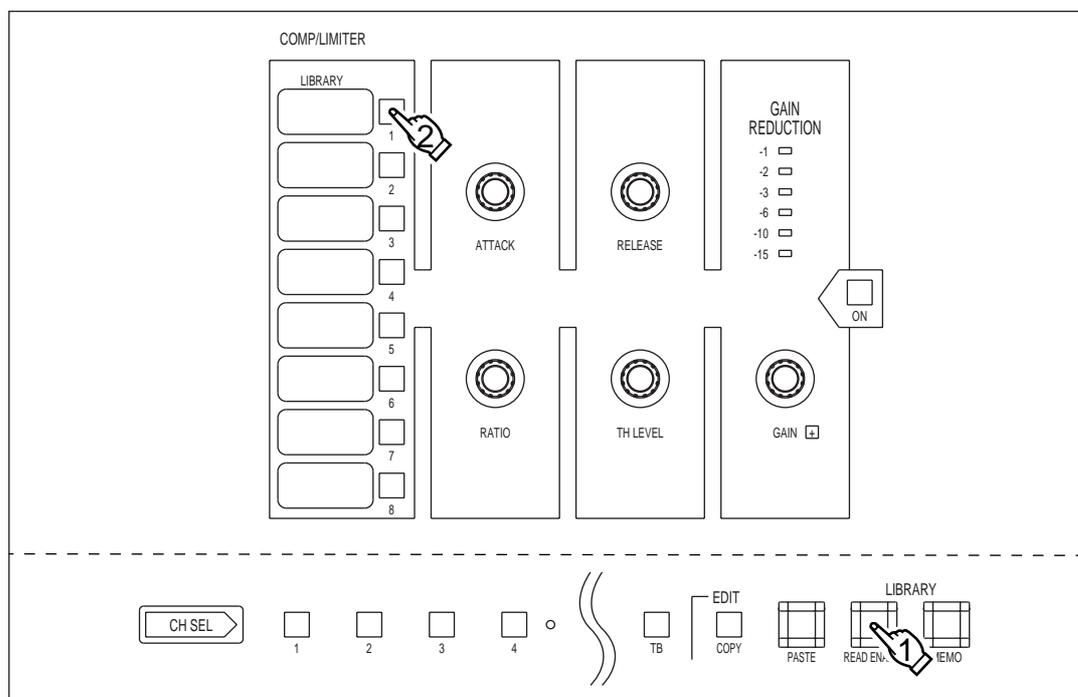
- スイッチが点滅し、ライトモード（書き込み状態）になります。
- もう一度押すと、ライトモードが解除されます。

3 書き込みを行うダイナミクスライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- 書き込みが実行され、ライブラリMEMOスイッチが消灯します。

ダイナミクスライブラリを呼び出す

登録したダイナミクスライブラリを呼び出すときは次の操作を行います。
チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“COMP/LIMITER”操作部の操作方法です。



1 ライブラリREAD ENABLEスイッチを押します。

- スイッチが点滅し、リードモード（呼び出し状態）になります。
- もう一度押すと、リードモードが解除されます。

2 呼び出しを行うダイナミクスライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- 呼び出しが実行されます。
- 他のチャンネルにアクセスしたり、他のダイナミクスライブラリ選択スイッチを押すと、続けて呼び出しが実行されます。
- 呼び出しを解除するときは、ライブラリREAD ENABLEスイッチを押してください。

ライブラリメモリーの活用

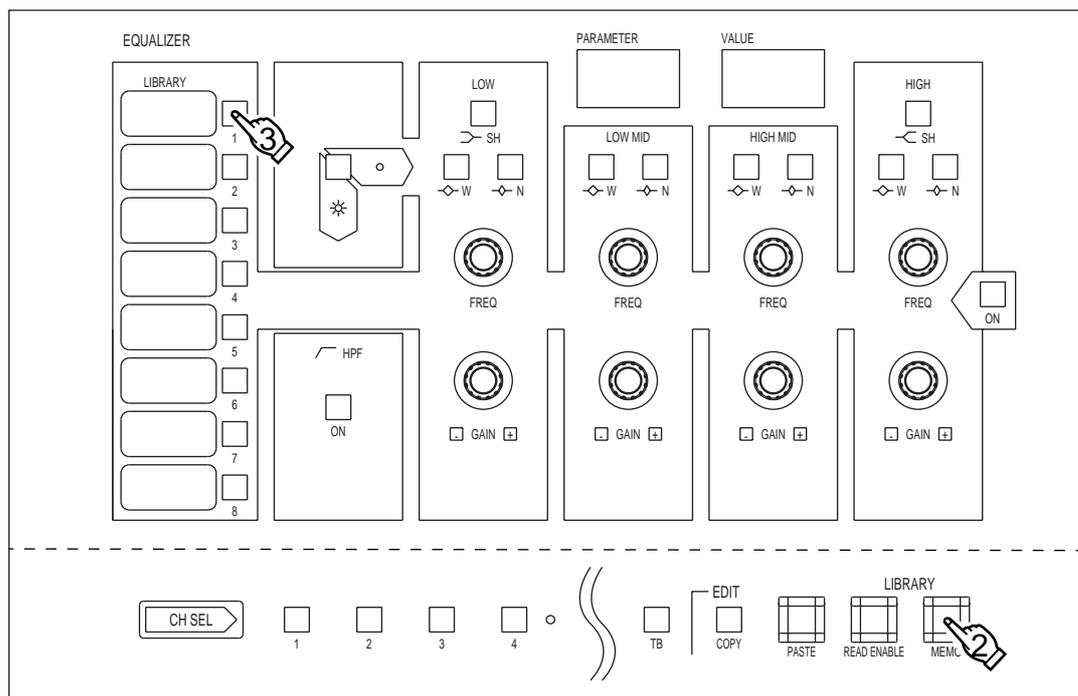
イコライザーライブラリ

イコライザーライブラリでは、1チャンネル分のイコライザーデータを8パターンまで登録し、呼び出すことができます。

イコライザーライブラリを書き込む（登録する）

イコライザーライブラリを登録するためには次の操作を行います。

チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“EQUALIZER”操作部の操作方法です。



1 チャンネルコントロール部に呼び出したチャンネルのイコライザー設定を行います。

(基本操作編、45ページ)

2 ライブラリMEMOスイッチを押します。

- スイッチが点滅し、ライトモード（書き込み状態）になります。
- もう一度押すと、ライトモードが解除されます。

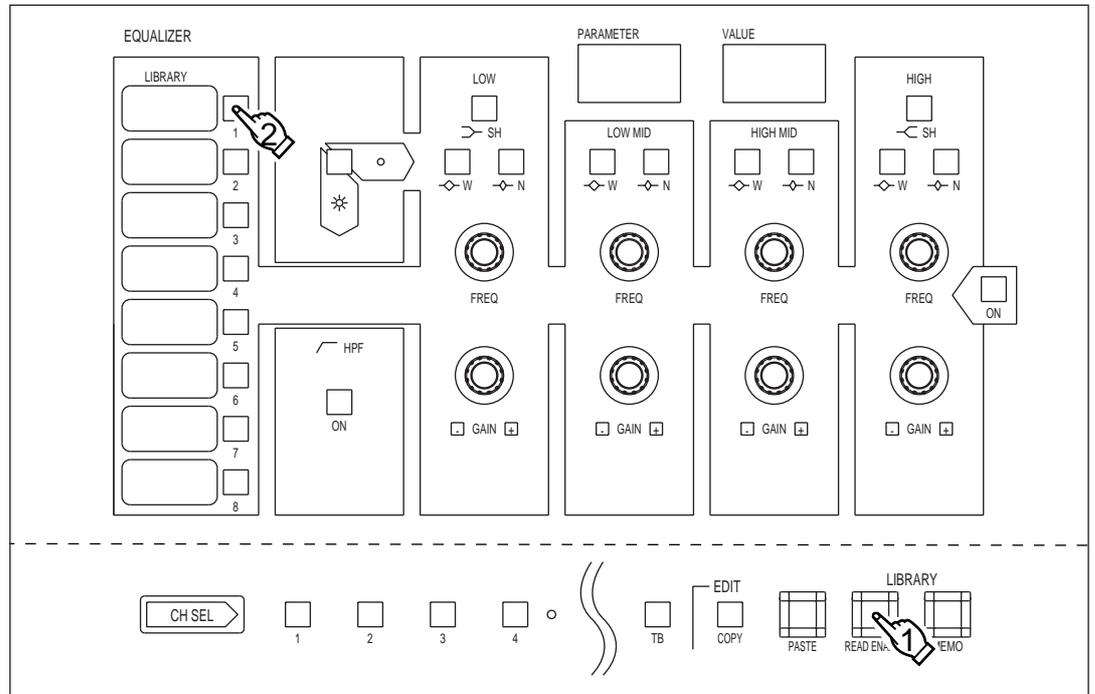
3 書き込みを行うEQライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- 書き込みが実行され、ライブラリMEMOスイッチが消灯します。

イコライザーライブラリを呼び出す

登録したイコライザーライブラリを呼び出すときは次の操作を行います。

チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“EQUALIZER”操作部の操作方法です。



1 ライブラリREAD ENABLEスイッチを押します。

- スイッチが点滅し、リードモード（呼び出し状態）になります。
- もう一度押すと、リードモードが解除されます。

2 呼び出しを行うEQライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- 呼び出しが実行されます。
- 他のチャンネルにアクセスしたり、他のEQライブラリ選択スイッチを押すと、続けて呼び出しが実行されます。
- 呼び出しを解除するときは、ライブラリREAD ENABLEスイッチを押してください。

ライブラリメモリーの活用

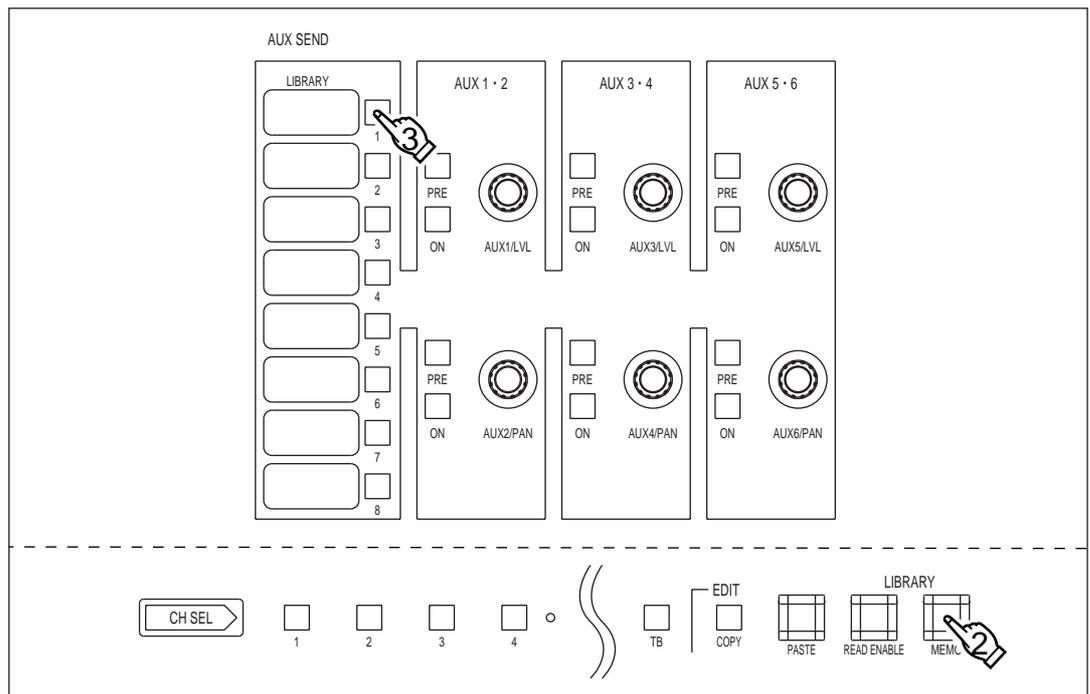
AUXセンドライブラリ

AUXセンドライブラリでは、1チャンネル分のAUXセンドデータを8パターンまで登録し、呼び出すことができます。

AUXセンドライブラリを書き込む（登録する）

AUXセンドライブラリを登録するためには次の操作を行います。

チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“AUX SEND”操作部の操作方法です。



1 チャンネルコントロール部に呼び出したチャンネルのAUXセンド設定を行います。

2 ライブラリMEMOスイッチを押します。

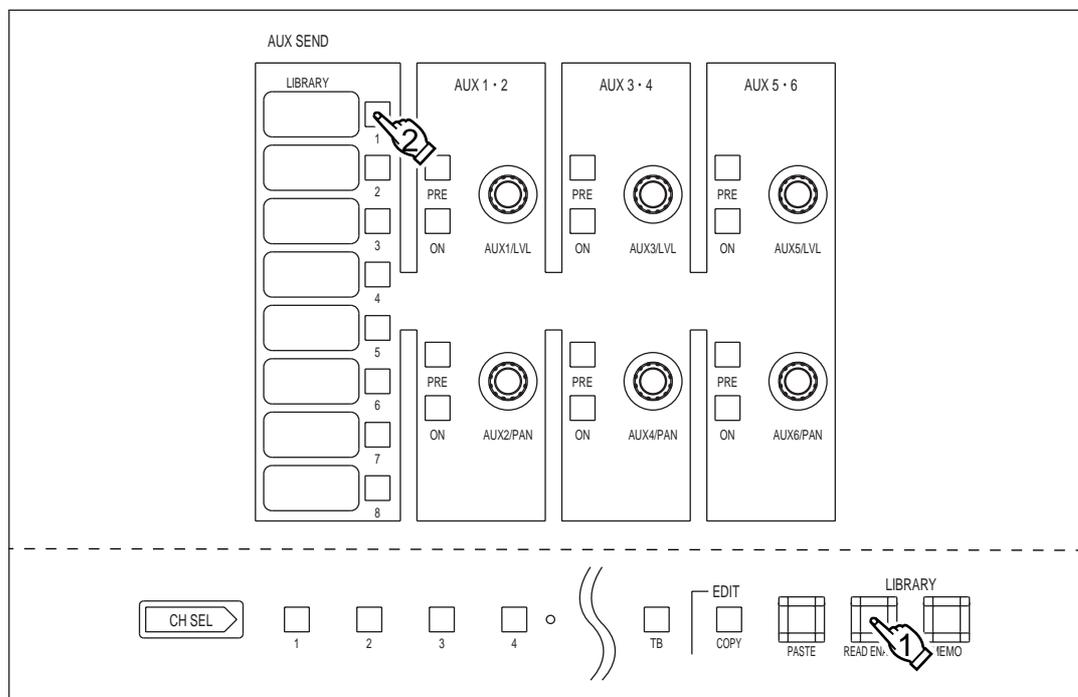
- スイッチが点滅し、ライトモード（書き込み状態）になります。
- もう一度押すと、ライトモードが解除されます。

3 書き込みを行うAUXセンドライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- き込みが実行され、ライブラリMEMOスイッチが消灯します。

AUXセンドライブラリを呼び出す

登録したAUXセンドライブラリを呼び出すときは次の操作を行います。
チャンネルコントロール部にある“EDIT”部、“AUX SEND”操作部の操作方法です。



1 ライブラリREAD ENABLEスイッチを押します。

- スイッチが点滅し、リードモード（呼び出し状態）になります。
- もう一度押すと、リードモードが解除されます。

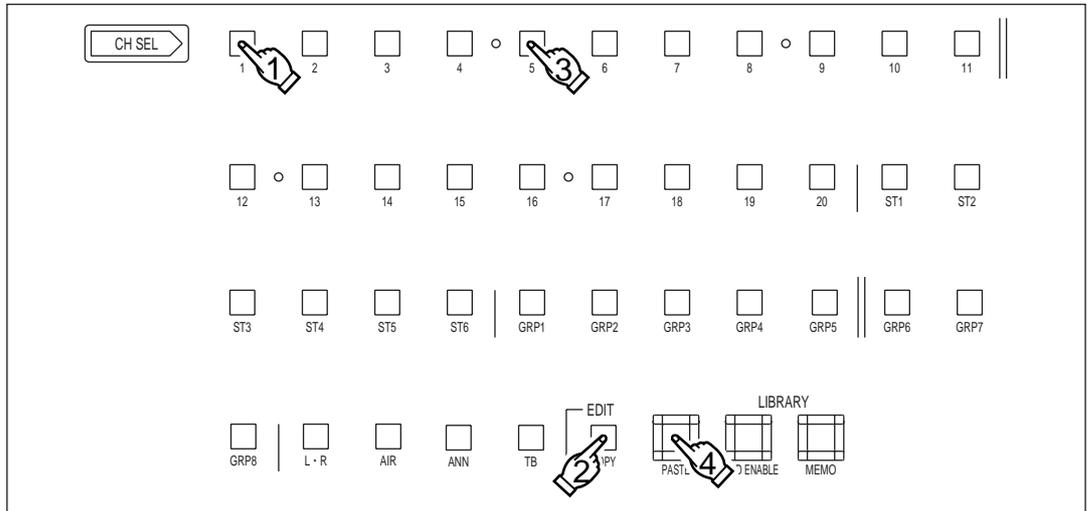
2 呼び出しを行うAUXセンドライブラリ選択スイッチ（1～8）を押します。

- 呼び出しが実行されます。
- 他のチャンネルにアクセスしたり、他のAUXセンドライブラリ選択スイッチを押すと、続けて呼び出しが実行されます。
- 呼び出しを解除するときは、ライブラリREAD ENABLEスイッチを押してください。

チャンネルデータのコピー

チャンネルコントロール部に呼び出したチャンネルのデータを他のチャンネルにコピーすることができます。

チャンネルコントロール部にある“EDIT”部の操作方法です。インプット1チャンネルのデータをインプット5チャンネルにコピーする手順を例に説明します。



1 チャンネル選択“1”スイッチを押します。

- コピー元チャンネルとして選択され、チャンネルコントロール部にデータが表示されます。

2 チャンネルコピースイッチを押します。

- インプット1チャンネルのデータがミキサーの内部メモリーにコピーされます。
- コピー実行時、チャンネルコピースイッチが約1秒間点灯します。

3 チャンネル選択“5”スイッチを押します。

- コピー先チャンネルとして選択され、チャンネルコントロール部にデータが表示されます。

4 チャンネルペーストスイッチを押します。

- ミキサーの内部メモリーにコピーされたインプット1チャンネルのデータがインプット5チャンネルにコピーされます。
- 続けて別のチャンネルを選択してチャンネルペーストスイッチを押すことにより、連続してインプット1のチャンネルデータをコピーすることができます。
- コピー実行時、チャンネルペーストスイッチが約1秒間点灯します。

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVマルチメディアビジネスユニット

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045) 932-1231 (大代表)

NM0701-1111 A8QC5832BN

© Matsushita Communication Industrial Co.,Ltd. (松下通信工業株式会社) 2001